

## 「点訳のてびき第3版指導者ハンドブック」修正箇所別紙

※変更点は文字を赤にしていますが、「差し替え」の場合は、黒で書いています。

### 第2章

#### その1 仮名遣い

##### 1 基本的な仮名遣い

###### p14 コラム 点字と「現代仮名遣い」

つまり〈次のような促音化にゆれのある語は、意味の理解を容易にするために、なるべく「キ」「ク」「ツ」と書き表す。〉としています。

##### 2 その他の仮名遣い

###### 1. 外来語・外国語

###### p16 ポイント解説

外来語・外国語は、原文の表記に従って書くことが原則です。〈処理1〉では、〈児童書などに「キェ・ニェ・ヒェ・グィ・グェ・グォ・スイ・ズィ・フョ・ヴョ」のような、なじみの薄い外来語の表記が用いられている場合は、読みやすさを考慮してその発音に近いと思われる表記にすることができる〉ことを定めています。

###### 4. 特殊音点字を用いても書き表せない文字

###### p19 ポイント解説

特殊音点字を用いても書き表せない文字は、なるべく発音に近い文字をあてます（「指導者用マニュアル」p46コラム参照）。

「てびき」p30 コラム4にもあるように、外来語の古い表記ですので、この問題は、講習会では省略してもよいでしょう。

###### 2. 固有名詞の仮名遣い

###### p21 ポイント解説

仮名で書かれた固有名詞は、原文の仮名遣いに従います（「Q&A」Q8参照）が、「う」と書くのびる音は長音符を用いて書きます。またワ行の「キ」「エ」は、ア行の「イ」「エ」に代えて書きます。

###### p25 コラム 正しい仮名遣いで書くために 《差し替え》

「てびき」第1章 その6をもう一度読んで確認してください。

調査のツールについても講習の中で取りあげるようにしましょう。

辞典類については、『点訳資料校正基準』（2015年 全視情協発行）の【資料8】に紹介してあります。

また、インターネットによる調査も有効です。上記の「校正基準」【資料7】に注



その2 数字

2 数を含む言葉の書き方

1. 数字を漢字音で発音する場合

p61 8

八      八      八

〈同格の正答〉

八 = 八

その3 アルファベット

1 文字として書き表す場合

p64 5

5      5      5

Tシャツ削除

## 第3章

### その1 自立語と付属語

#### 3. 形式名詞

##### p 9 ポイント解説

会話などで「泳いだ□もんだ」「行った□まんまで」「早い□ところ」のように語形が変化した場合も前を区切って書きます（「てびき」p61 7.「音韻変化や省略形」参照）。

#### 7. 「なさい・なさる」

##### p16 ポイント解説

「お入りなさい」が「お入んなさい」、「おくれなさい」が「おくんなさい」のように音韻変化している場合、「オハイン」「オクン」には自立性がなく、「お」が付いても名詞化していると言えませんので、続けて書きます（「Q&A第2集」Q37参照）。

「お休みなさい」や「お帰りなさい」が上の用例のように用いられている場合は区切って書きますが、「おやすみなさい」「おかえりなさい」という挨拶言葉として用いられている場合は一続きに書きます。《以下削除》

#### 8. 形容詞の「ない」、助動詞の「ない」

##### p18 ポイント解説

「持ってない」は、「持って（は）ない」として、「ない」を補助形容詞ととらえ、「ない」の前を区切って書きます。

### その2 複合語

#### p56 コラム 切れ続きは変化する 《最後の段落差し替え》

「てびき」を補完する意味で「Q&A」「Q&A第2集」や「点訳ナビゲーター」も参考にしてください。何より、施設・団体として研修を重ね、確認し合って進めていくことが大切になるでしょう。

## 第4章

### その1 句読符

#### 4. 中点

#### p12 ポイント解説 《語例追加》

③語句の切れ目を明らかにするために用いられる中点で、省略してよい場合

ア. 省略して一マスあけに替えるもの

ダイニング・キッチン レベル・アップ ジュール・ベルヌ

H・G・ウェルズ 故・芦屋雁之助 上野・寛永寺

アメリカ・マサチューセッツ州 渋谷・青山通り 2012・11・4

首相・犬養毅 天才画家・山下清 夫・家定 故郷・周防大島 等

#### p14 コラム 併記するとき、読点と中点はどう使い分ける？

「表記法」には、第4章 第1節 5. (1)【注意】に「読点と中点を同時に使い分ける場合、読点は中点よりもやや大きな区切り目に用いられる」とあり、次の例が挙げられています。

材料は、鶏肉・玉ねぎ・ピーマン、サラダオイル・マヨネーズ、塩・胡椒・化学調味料です。

### その2 囲みの記号

#### 1. カギ類

#### p17 ポイント解説

第1カギ・ふたえカギは、墨字の「～」『～』の用法にほぼ対応しています。第1カギ・ふたえカギと区別して他のカギを必要とする場合に、第2カギを用います。

カギ類は、原則として会話文・引用文、強意・強調に用います。機械的に形で対応させるのではなく、意味・用法を考え、カギ類を用いるかどうかを決めます（「Q&A第2集」Q73参照）。このことは、カッコ類の項でもう一度説明します。

#### p18 ポイント解説（続き）

カギで囲んだ文や語句が並列する場合、次のように考えます（「Q&A第2集」Q72参照）。

③「文」と「文」が並列する場合は二マスあけ

「太郎がボールを蹴った」□□「ボールを太郎が蹴った」□□日本語は語順を替えても意味は同じです。

※一つの文の中で、「文」と「文」が並列する場合は一マスあけです。

日本語では「太郎がボールを蹴った」□「ボールを太郎が蹴った」と語順を替えても意味は同じです。

④一つの文の中に「文」と「語句」が混在する場合も一マスあげです。

長生きの秘訣は、「散歩」□「食事は自分で作る」□「孫との会話を楽しむ」□「友人とのゲートボール」です。

カギ類の内側に同じカギ類を用いて、誤読のおそれがある場合は、他のカギ類に置き換えます。7. の用例では、「笑」「美しい」「子」をふたえカギや第2カギにします。

## 2. カッコ類

### p20 ポイント解説

カッコ類は、第1の用法として、前の語句の**注釈的**説明に用います。「くぎり符号の使ひ方」には「カッコは註釈的語句をかこむ」とあり、「表記法」には「注記する場合」(p68)とあります。ほとんどは、前の語句に続けて書いてよいでしょう。

カッコ類の内側に同じカッコを用いて誤読のおそれがある場合、他のカッコ類に置き換えます。**ただし、カギ類や指示符類の内側であれば、第1カッコを用いることができますので、用例7. の(哲学者)は二重カッコ、第1カッコどちらでもよいことになります。**

## 3. 指示符類

### p22 ポイント解説 《最後に追加》

原文の(傍点筆者)や下線部に対応する記号を説明する場合の書き方は「Q&A第2集」Q77も参照してください。

**指示符類の内側に第1カギが続く場合の書き方については、「てびき」p133 「3. 囲みの記号が他の記号と連続する場合」(3)を参照してください。**

### p23 コラム 指示符類はどう用いるか

すなわち「語句や文の全部または一部を引用・強調または指定する場合、墨字では、さまざまな形のカギ類で囲んだり、線や点を下や横に添えたり、活字の大きさや字体を変えたりしている。点字では、カギ類や指示符類を**用いることになるが**、これらのすべてをそのまま表すことができたとしても、文の読み取り自体が困難となるので、一般書では、強調表現をできるだけ省略するなどして、必要最小限度にとどめるべきである。しかしながら、学術書などでは、内容を正確に読み取ることができるようにするため、**原文の内容を忠実に書き表わす**必要も生じている」と書かれています。

## 6. 点訳挿入符

### p29 コラム 《タイトル、1段落、2段落 差し替え》

## 極めて難解な語

「てびき」 p112【備考1】に「点訳挿入符で説明を必要とする語句は、(ア)同音異義語があって、文脈の中でも判断が難しい語、(イ)極めて難解な語などである。」とあります。

「極めて難解な語」とはどのようなものでしょうか？

## 7. 段落挿入符類

### p31 ポイント解説

段落挿入符類は、本文の要約・前文・詳細な説明、戯曲などの情景説明など本文とは扱いを変えて書かれている場合に用います。戯曲などの情景説明の書き方は、「第5章 書き方の形式」編で説明します。ここでは、本文の要約・前文と言えるような用例を載せました。

段落挿入符類の練習ですので、ここでは段落挿入符類を用いて書きますが、実際の点訳では、この用例のような場合、必ず段落挿入符類を用いなければならないわけではありません。見出しの後に、前文を書き、行あけなどを用いて、本文に入ったり、小見出しを書いたりして差し支えありません。

## その3 線類

### 3. 波線

### p36 ポイント解説

波線の範囲を示す両端が揃わない場合でも、波線を用いることができますが、文脈上自然であれば、「カラ」「マデ」などに置き換えることもできます。《以下変更無し》

## その4 その他の記号類

### 1. つなぎ符類

### p39 ポイント解説 《差し替え》

「てびき」 p120の①～⑨に、第1つなぎ符を用いる場合についてまとめてあります。

⑥⑦⑧は、「文脈によっては用いる場合がある」ものですから、説明の際には、第3章を復習しながら誤解のないように注意する必要があります。なお、「Q&A」Q68、Q82も参照してください。

前ページの練習用例は、①～③の内容になっています。

### 2. 小見出し符類

### p42 ポイント解説

2種類の小見出し符を使い分けることが必要な場合には、第1小見出し符、第2小見出し符の順に用います。

### 3. 文中注記符

#### p44 ポイント解説 《5段落・6段落差し替え》

本文と注の説明の間は、仕切りのための線を引いたり、枠線で囲んだり、行あけをしたり、(注) と入れたりして区別します。

一マス目から最終マスまでの②⑤の点（全マス実線）は、そのページの下部に注記を収めて書く場合に用いるもので、ページが変われば本文に戻るので注意しましょう。（p187 3.【備考1】参照）

### 4. 星印類

#### p47 コラム 第2、第3の出番は？

日本の点字の表記符号は、数符や外字符、外国語引用符、発音記号符とそれらの関係符号（大文字符、ストレス符など）を除くと、『日本点字表記法 現代語篇』では21でした。それが、『改訂日本点字表記法』では37、「90年版」では48（34+伏せ字などの付加記号14）、「2001年版」では、畳語符などが整理され、表記符号として一覧表に載っているのは44になりました。さらに「2018年版」では、スラッシュとアットマークが増えて46になっています。

### 7. 伏せ字

#### p50 ポイント解説

一続きに書き表すべき1語中の伏せ字の前の文字との間は第1つなぎ符をはさみ、伏せ字の後ろは仮名に続く場合のみ第1つなぎ符をはさんで書きます。伏せ字の後ろに、数字やアルファベットが続く場合は、第1つなぎ符は用いません。

連続する数字の一部に伏せ字がある場合は全て「⠠⠠⠠⠠」で表します。数字の伏せ字は数符の有効範囲の中だけで用い、一連の数字の最後が伏せ字の場合は、続く文字との間は第1つなぎ符をはさんで書き、アルファベットの場合は続けて書きます。後ろが助詞・助動詞なら一マスあけます。

### 9. アンドマーク

#### p53 ポイント解説

この記号は日本語の文中に用いるものなので、英文中では「⠠⠠⠠⠠」と書きます（次ページのコラム「日本語の記号と英語の記号」参照）。

#### p54 コラム 日本語の記号と英語の記号 《差し替え》

「&」の記号を「⠠⠠⠠⠠」と書くのは、日本語の点字記号です。英語ではこの形ではありません。⑤⑥の点がついているので、「英語でも使えそう…」と勘違いする初心者もいますので、丁寧に説明しましょう。



## 10. 疑問符の後ろ（第2順位）と小見出し符の前（第1順位）

また、9. は次のように考えます。

9. カギ類を閉じて、そこで明らかに文が終わったと見なされる場合は、句点がある場合と同様に、第2順位と見なします。ですから、次に棒線がある場合は、第2順位と第3順位で、カギ類の後ろを二マスあけます（「Q&A」Q110参照）。

《ここまで。現在の下2行は削除》

### 3. 囲みの記号が他の記号と連続する場合

p63 ポイント解説 《差し替え》

⑥ 第1カギ、ふたえカギの内側に波線が続く場合は、カギ類を第2カギなどに置き換えます。または、波線を「カラ」などと仮名で書くことができます（4. の例）。

## その6 特別な配慮を必要とする記号類

### 3. 墨字のハイフン（-）・コロンの（:）

p67 ポイント解説

「10:00」のように数字の間にコロンの用いられている場合、「」と略記することができます。「てびき」p195にあるように、点訳書凡例や点訳挿入符で説明を加えるなどの配慮が必要な場合もあります。

### 5. 棒線や点線が本文以外の箇所に用いられている場合

p71

「本文以外の箇所」とは、標題紙や目次、奥付などで用いられている棒線や点線、また、レイアウトを整えるために用いる②⑤の点や②の点の連続を指します。これらの書き方については、「第5章 書き方の形式」編のところで具体的な例をあげて説明します。

p71 コラム 英語の記号とマスあけ 《下8行目以降差し替え》

・数符の効力は、数字に読めない文字やコンマ・ピリオド以外の記号が現れたところで終わります。数字から文字への切り替えを示す文字は、数字の直後（あるいは数字の後のコンマまたはピリオドの直後）に小文字の a～j が続く場合のみ必要となります。参考文献などで「1990-92」などとある場合、「」と、ハイフンの後ろには数符が必要です。

英語の中に数式が出てきた場合は、英語の算数記号を用いるのではなく、言葉で plus、minus、times、divided by、equals と書きます。

《以下変更無し》

## その7 体系の異なる点字表記

## 1. 英語

### p73～p74 ポイント解説 《6段落以降差し替え》

on/off、and/orなどの斜線（⠠⠨⠠⠨）は、そのまま用い、⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨ のようにひと続きに書きます。スラッシュの前後のマスあけは原文の通りにします。

小数点や位取り点、数字とハイフンの書き方も日本語の書き方とは異なりますので注意しましょう。

日本語では、生没年は、⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨ のように波線を用いますが、英語点字では、ハイフンを用い、⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨⠠⠨ となります。

英語以外のドイツ語・フランス語などが一般書の文中に挿入されている場合も、原則として英語の点字表記に従って書きます。ドイツ語やフランス語の変母音やアクセント記号が付く文字には、アクセント符を前置します。

Grüßs Gott. (ドイツ語「こんにちは」)の「ü」は「u」に④の点を前置しますが、「ß (エスツェット)」は、「B (ビー)」ではありませんので注意しましょう。「⠠⠨⠠⠨」と書きます（「てびき」p240参照）。

英語の点字表記には、U E Bの表記に従い、縮約を用いるGrade IIの表記法もありますが、原則として一般書ではU E Bの表記は用いず、フルスペル（Grade I）で書きます。U E Bの表記で書く場合は、必ず点訳書凡例で断ります。

「Q&A第2集」Q104～Q108も参照してください。

## 2. 情報処理用点字

### p76 ポイント解説 《差し替え》

Eメールやホームページのアドレスなどは、情報処理点字のアドレス囲み符号（⠠⠨⠠⠨ ⠠⠨⠠⠨）で囲んで書き、内側・外側の切れ続きは、外国語引用符の用法に準じます。「てびき」p141の「コラム27」を参照してください。

1行で書ききれず途中で行を移す場合は、2行目以降の行頭に行継続符（⠠⠨）を書きます。

行を移す場合は、区切りのよい箇所（ドット・スラッシュの後ろ、アットマークの前など）で分けます。二マスからなる点字記号の途中や、大文字・数符などの直後では行移しをしません。「Q&A第2集」Q110も参考にしてください。

「~」（チルダ）と「—」（オーバライン）は墨字では表記が異なりますが、情報処理記号としては同一であるため、点字ではどちらも「⠠⠨⠠⠨」で表します。



p89 10

p89 下6

## その2 囲みの記号

### 1. カギ類 (p16)

p92 下7

p93 4

p94 5 〈同格の正答〉

### 2. カッコ類 (p19)

p95 5

〈同格の正答〉

3. 指示符類 (p21)

p96 下9

p98 〈同格の正答〉

その3 線類

1. 棒線・点線 (p33)

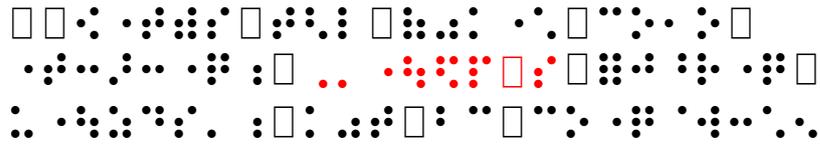
p106 6



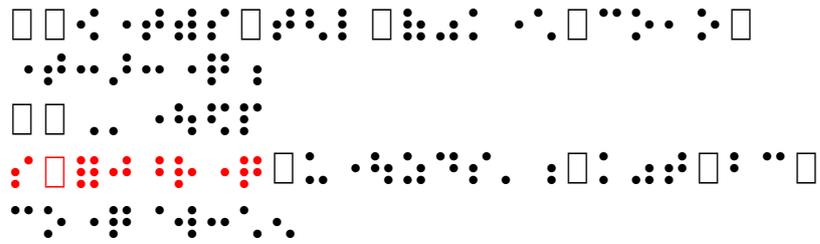


5. 楽譜記号 (p81)

p144 下9



〈同格の正答〉 行替えして書く場合



## 第5章

### その1 本文の書き方

#### 2. 行末の扱い

p 5 ポイント解説 《3段落書き換え》

ただし、できるだけ(1)の「本来続けるべきカッコ類や点訳挿入符の前、数字付き文中注記符の前」、(2)「波線の後ろ」で行います。(3)～(5)の方法はあまりお勧めではありません。「Q&A」Q125も参照してください。

### その3 詩歌・戯曲などの書き方

#### 1. 詩

p23 コラム 英語の詩 《追加》

ただし、詩行符 (⋮)、ダブルダッシュ (⋮⋮⋮⋮) を用いた場合は、英語の詩にこれらの記号を用いたことを点訳書凡例などで断ります。

### その4 図や表の書き方

#### 1. 表の書き方

p37 コラム 二つ以上の表を連続して書く場合 《差し替え》

表が二つ連続してある場合、一つ一つ枠線で囲んだ方がよいのか、まとめて一つの枠線内に書いてよいのか、その場合、二つの表の間は、行あけがよいのか、仕切りの線などを用いた方がよいのか、悩みます。

「てびき」の記載から、一般的に、表は段落の切れ目に一つずつ枠で囲んで入れませんが、関連する表の場合は、二つ以上の表を一つの枠に入れることもできます。

二つの表の間を行あけにするか仕切りの線にするかは、その原本の中で統一してあれば、どちらでもよいでしょう。

連続している表でも一つ一つを枠で囲む方法のメリットとしては、

①枠の中に必ず一つの表なのでレイアウトがすっきりする。

一つの枠に二つ以上の表が入ると、見出し、点訳挿入符、原本の注、出典などが、繰り返し入ることになり、レイアウトを工夫しないと分かりにくくなる場合もあります。

②枠線を探していけば必ず表の始まりが分かるので、検索性に優れている。

二つ以上の表が一つの枠に入っていると、二つ目の表は探しにくくなります。

一方、デメリットは、上の表の閉じの枠線と下の表の開きの枠線が二重になるので、1行、場合によってはそれ以上無駄になることが挙げられます。

表が巻末に幾つも続いたり、見出しの最後にまとめて載っていたりする場合は、必ずしも、始まりと終わりを枠線で囲む必要はありません。仕切りの線を入れるか、行

あけをして、表の始まりと終わりが分かるようにすればよいでしょう。

## 2. 図の書き方

p47 コラム 触図を書く前にー 視覚と触覚の違い

原本に図があれば、図として表すか、文章化するか、省略するか判断します。

その際、次のような点を考慮しましょう。 《以下、変更無し》

## その6 本文以外の割り付け

### 4. 目次

p67 ポイント解説 《4段落差し替え》

ページ数は29マス目から書き、見出しとの間は、前後ろを一マスあけて②の点または⑤の点でつなぎます。見出しの最後に点線が付いて、②の点だと紛らわしくなる場合は⑤の点を用います（「てびき」 p202 例3参照）。なお、その場合は、1タイトルを通して⑤の点を用いることになります。

## 参考資料

p72 《カギ内の各項目番号を削除しています。》

巻末に12項目の参考資料があります。講習会だけでなく、必要に応じて点訳・校正作業などに活用してください。

ただ、いずれも参考程度の記載です。特に「数学記号・外国文字」「主な単位記号」「発音記号」「情報処理点字記号」については、ここだけを参考に点訳するのではなく、「てびき」の第2章～第4章の該当箇所に戻って確認しながら、それぞれの専門分野の書籍を参照して、点訳・校正作業をするようにしてください。

ここでは、「古文・漢文の点字表記」と「主な単位記号」には用例を掲載し、規則の注意点について補足してあります。

その他の項目は、講習会の内容に応じて、関心を深めるきっかけとしてお使いください。《以下削除》

### 1 古文・漢文の点字表記

p73 ポイント解説

原文に古文が引用されている場合、「てびき」 p23（第2章 その1 「1 基本的な仮名遣い」 4. (8)）に従って、多くは現代文の仮名遣いで書きますが、文脈によっては古文の仮名遣いを用いて書く場合もあります。

その場合、p211～p223の古文の点字表記の規則に従って書きますが、特に次の点に気をつけましょう。

### 3 著作権法

p75 《p75 14行目からp76 下6行まで削除して、以下の文に差し替え》

「てびき4版」には、2019年1月1日に改正施行された著作権法第37条（視覚障害者等のための複製等）と第20条（同一性保持権）を全文掲載しましたので、参照してください。

第37条第1項、第2項については変更がありませんが、第3項では、以下の2点が変わりました。

①視覚障害者等の定義

旧 視覚障害者その他視覚による表現の認識に障害のある者

新 視覚障害その他の障害により視覚による表現の認識が困難な者

②公衆送信が可能

旧 ……、当該視覚著作物に係る文字を音声にすることその他当該視覚障害者等が利用するために必要な方式により、複製し、又は自動公衆送信（送信可能化を含む。）を行うことができる。

新 ……、当該視覚著作物に係る文字を音声にすることその他当該視覚障害者等が利用するために必要な方式により、複製し、又は公衆送信を行うことができる。

第20条に変更はありませんが、第2項第4号によって点訳のための改変が認められていることを確認すると同時に、同一性保持権を侵害しない姿勢を持ち続けることの必要性を認識しましょう。

#### 4 郵便法・内国郵便約款

p77～p78 《すべて削除して以下の文に差し替え》

郵便法・内国郵便約款とも、「点字用郵便」に関する内容に変更はありません。

「てびき4版」では、「第4種郵便物」についての記述がある郵便法第27条と内国郵便約款第33条の両方を記載しました。また、点字郵便物を扱う上で必要となる内容を記載した内国郵便約款の該当条項を紹介しています。

①大きさ及び重量の制限：第8条

②開封の郵便物：第10条

③点字郵便物等の表示：第37条

④第4種郵便物に記載等することができる事項：第40条

⑤料金表：第5表 第四種郵便物の料金

#### 5 数学記号・外国文字

p79 《差し替え》

数学記号や外国文字を点訳で使用する場合は、それぞれの項目の注意をよく読み、各専門分野の資料を参照して書きます。

一般書では、特に記号で表記する必要がない場合は、数学記号は用いず、仮名で書きます（「てびき」p142【備考】、「ハンドブック4章編」p78参照）。

また、英語以外の外国語も英語点字で記すことが原則です。英語以外の外国語点字で表記する場合は、点訳書凡例や点訳挿入符で断るなどの配慮が必要になります。なお、ロシア語やハングルなど、英語点字で表記できない外国語の場合は、その外国語点字を用いずに、調査した上で発音を仮名で書く方法もあります。この場合も点訳書凡例などで断ります。

ローマ数字やギリシャ文字の書き方は、日本文中と英文中では異なりますので、注意しましょう。